

研究活動報告

平成13年度社会保障・人口問題基本調査「第5回人口移動調査」の施行

1 調査の目的および意義

わが国では、2007年前後の総人口のピークに向かって、人口増加が縮小しつつあり、人口移動が地域人口の変動を左右する傾向を強めている。当研究所では、こうした傾向を踏まえながら、近年の人口移動の要因を明らかにするとともに、将来の人口移動傾向を見通すことを目的として、平成13年7月に人口移動調査を実施した。これは平成8年度の第4回調査に引き続き、5回目の調査にあたる。

この調査では、過去5年間で人口移動の傾向がどのように変化したかを探るとともに、以下の点に重きを置いて調査を行っている。

第1に、東京圏への純流入がプラスになった要因を探るとともに、この傾向が今後も持続する可能性の有無を判断する資料を得ること。

第2に、高齢者の移動および高齢者との同居等をめぐる家族の移動を明らかにすること。

第3に、少子化と子供の進学・就職・結婚等による移動との関連性を明らかにすること。

第4に、人口分布変動に影響を与える移動を取り出し、その要因を明らかにすること。

第5に、近い将来にどの地域に居住しているかという見通しを明らかにすることによって、地域人口の将来推計に必要な資料を得ること。

2 調査の対象および客体

全国の世帯主および世帯員を対象とし、平成13年国民生活基礎調査で設定された調査地区内より無作為に抽出した300調査区内のすべての世帯の世帯主および世帯員を調査の客体とする。

3 調査の実施日

平成13(2001)年7月1日。

4 主な調査の事項

- 1) 世帯の属性
- 2) 世帯主および世帯員の人口学的属性
- 3) 世帯主および世帯員の居住歴に関する事項
- 4) 世帯主および世帯員の将来(5年後)の居住地域(見通し)に関する事項

5 調査の方法

この調査は、国立社会保障・人口問題研究所が厚生労働省大臣官房統計情報部、都道府県、保健所を設置する市・特別区および保健所の協力を得て実施した。調査票の配布・回収は調査員が行い、調査票への記入は世帯主の自計方式によった。

6 調査の実施状況

調査は7月に実施され、回収された調査票は、ほぼ7月後半から8月にかけて研究所に送付された。現在、調査票の内容の点検を行っており、この作業が終わり次第、結果を公表する予定である。

(清水昌人記)

特別講演会 (Albert Ando 教授)

2001年9月12日(水)午前10時から12時、国立社会保障・人口問題研究所第四会議室において、ペンシルバニア州立大学のアルバート・安藤教授による、"A Micro Simulation Model of Demographic Development and Households' Economic Behavior" と題された特別講演会が開かれ、研究所内外から多数の聴衆が参加した。安藤教授は、ライフサイクルを通じた消費・貯蓄行動に関する世界的な権威であり、近代的なマクロ経済理論を構築された経済学者の一人でもある。講演では、年齢や世帯人口など様々な属性をもつ家計の行動がどのようにマクロ経済と関連し、また人口学的変動が経済成長に及ぼす影響を、マイクロ・シミュレーション・モデルを用いて分析された結果が紹介された。本講演ではイタリアにおけるデータ・セットを用いられたが、今後、日本のデータ・セットを用いて研究を継続されるとのことであった。講演後、活発な質疑応答がなされ、マイクロ・シミュレーション・モデルの有用性などが話題になった。(加藤久和記)

第1回社会保障審議会人口部会

社会保障審議会の第1回人口部会は2001年8月7日(火)午後4時より5時30分まで日比谷松本楼で開催された。本部会の開催目的は、国立社会保障・人口問題研究所がおこなう2000年国勢調査人口を基準人口とした次期将来人口推計(2002年1月を目途に作業をおこなう予定)の考え方や推計前提について検証をおこなうこととされている。委員は次の17名である。

秋山弘子、阿藤 誠、市川 尚、岩淵勝好、小川直宏、駒村康平、小宮英美、高橋義哉、津谷典子、永瀬伸子、長谷川眞理子、廣松 毅、向山孝史、山崎泰彦、山路憲夫、山田昌弘、雪下國雄(五十音順)

部会長には廣松 毅氏(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授)が選出され、阿藤 誠氏(国立社会保障・人口問題研究所所長)が部会長代理に指名された。報告聴取として、2000年国勢調査抽出速報集計結果(総務省統計局)、2000年人口動態統計月報年計(概数)の概況(厚生労働省大臣官房統計情報部)、2000年簡易生命表(厚生労働省大臣官房統計情報部)についての報告がおこなわれた後、将来人口推計の方法と前回(1997年)推計の基本的な考え方について国立社会保障・人口問題研究所の高橋重郷人口動向研究部長より説明がなされた。(佐藤龍三郎記)

日本統計学会第69回大会

日本統計学会(新会長:杉山高一・中央大学教授)の第69回大会(開催校組織委員長:新谷正彦・西南学院大学教授、プログラム編成委員長:岩崎学・成蹊大学教授)が2001年9月1日(土)~4日(火)の4日間にわたって福岡市の西南学院大学で開かれた。9月1日(土)には2つのチュートリアル・セミナーが開かれた。翌2日(日)から4日(火)の午後にかけて42のセッションで研究報告